

TAKE FREE

歴史と文化を訪ねるまち

目黒を歩いてみよう。

ダイジェスト版

目黒観光 大百科

Meguro Tourism Encyclopaedia



一般社団法人 めぐろ観光まちづくり協会

Meguro Tourism Association

めぐろを巡る訪問マナー



めぐろ 巡りの お作法

「新しい時代」の「新しいマナー」で
楽しい「めぐろ巡り」をお楽しみください



めぐろには多くの神社仏閣、数々の観光スポットがありますが、その場所ごとの「新しいお作法」を心得ておくと、より「めぐろ巡り」が楽しめます。

例えば、神社に参拝する場合は境内に入って最初に出会う「手水舎」^{てみずや}。かつては水垢離^{みずごり}をして、参拝前に滝や川で身体^{からだ}のけがれをお浄め^{きよめ}したものの名残です。現在は新型コロナ感染防止対策として、不特定多数の人が触る柄杓^{ひしゃく}を置いていない所も多いようです。そのような神社は、流水で手や口を清めることを推奨している場合がありますので、それに準じるのが良いでしょう。

賽銭箱^{さいせんばこ}に賽銭を入れたあとに、鈴のある神社では鈴を鳴らしましょう。現在はコロナ対策で鈴を取っている神社もあります。お参りの際は「密」にならない心がけが大切です。

めぐろの神社仏閣には数多くの素晴らしい文化財が所蔵されており、本編でも紹介していますが、これら文化財などの中には、秘仏となっているもの、非公開や常時公開されてはいないものもあります。一部は数ヶ月～数年に一度の催事などの際に特別公開されるものもありますので、HPなどをチェックしてわくわくしながら御開帳を待つのも一興かもしれません。

また、文化財などのある場所は多くが寺社境内や個人宅などの私有地です。文化財を傷つけたり、許可なく公開されていない場所や個人の敷地内に入るような行為はもってのほかです。見学をする時はマナーを守り、静かな心で向き合えば、きっと昔のめぐろの人々からの声が聞こえてくるのではないのでしょうか。

※本巻で紹介の由来・伝承などには諸説ありますので、ご了承ください。



新しいお出かけマナー

基本的な
マナーに加えて、
下記に留意して
出かけましょう。



ソーシャルディスタンス

各場所には長居せず、
十分に安全な距離をとりましょう。



せきエチケット

せきやくしゃみをする際は
周りに気を配りましょう。



体調管理

発熱がある場合の
外出は控えましょう。



手洗い・消毒

指や爪の間もよく洗いましょう。



マスク着用

飛沫を防止するため、
マスクはしっかり着けましょう。



目・鼻・口は直接触らない

粘膜に直接触れないように、
ハンカチなどを使いましょう。

日本近代文学館

駒場公園内にある近代から現代文学の殿堂



展示資料・所蔵作品

約15,000人もの人から資料の寄贈を受けた文学館です。川端康成^{かわばたやすなり}や太宰治^{だざいおさむ}、夏目漱石^{なつめ そうせき}、芥川龍之介^{あくたがわりゅうのすけ}、島崎藤村^{しまざきとうそん}、石川啄木^{いしかわたくぼく}、樋口一葉^{ひぐちいちよう}、有島武郎^{ありしまたけお}など、日本近代文学を代表する、そうそうたる作家たちの手稿、原稿が保存されています。



▲太宰治「人間失格」原稿



ブックカフェ「BUNDAN」

様々なクリエイティブワークを手がけるBAKERUが、日本近代文学館の食堂内にオープンした文学カフェ。マニア垂涎^{すいぜん}の稀少本から日本文学史を彩る名作まで、店内には約2万冊の書籍があり、どの本も閲覧が可能です。「芥川 AKUTAGAWAコーヒー」「太宰治のりんご酒」「坂口安吾の焼酎サンドイッチ」など、作家ゆかりのユニークなメニューが揃っています。

小説家で詩人もあった高見順^{たかみ じゅん}※1や小田切進^{おだぎり すすむ}※2ら文壇・学会有志の呼びかけで、1967(昭和42)年4月、駒場公園内にオープンしました。経済成長へ向かう激しい社会の移り変わりの中で、散逸^{さんいつ}のはなはだしい近代文学関係の資料を収集・結集させ、各界からの絶大な援助によってつくられた文学館です。モダンな校倉^{あぜくら}づくり※3風の白い近代的な建物の館内には、現在、図書や雑誌を中心に、数々の名作の原稿も含め約120万点の資料を収蔵。閲覧室や展示室で、書籍や電子媒体として公開しており、有名な作家さんたちも訪れています。

また、ブックカフェ「BUNDAN」があり、落ち着いた雰囲気店内には稀少な本から名作まで自由に閲覧可能な書籍が置かれ、ゆっくりと読書をしながら文豪にまつわる料理やソフトドリンクなどが楽しめます。

※1) 高見順(1907～1965)…小説家・詩人。日本近代文学館設立にも尽力。

※2) 小田切進(1924～1992)…日本近代文学の研究者。

※3) 校倉づくり…木材を井桁^{いげた}に組んで外壁とする建築手法。



DATA

📍 目黒区駒場4-13-55
🕒 03(3468)4181
🕒 9時30分～16時30分(最終入館は16時まで)
🕒 日曜・月曜 第4木曜・年末年始 2月と6月の第3週特別整理期間
📍 京王井の頭線「駒場東大前駅」徒歩約7分

ここに注目！

川端康成や太宰治など、数々の有名文豪の生原稿や貴重な初版本を多数保存する近代文学の宝庫。



「氏子は疫病知らず」と伝えられる神社
上目黒氷川神社



池尻大橋駅から目黒川を渡り玉川通りを東へ。通り沿いの鳥居をくぐり、石段を登った高台に鎮座する神社です。天正の時代(1573年～)に武田信玄の家臣である加藤氏が上目黒村へ移り住んだ際、甲斐国上野原(現在の山梨県)の産土神をこの地で祀ったのが始まりといわれています。御祭神は悪疫撤退の神である「素盞鳴尊」、太陽の神「天照大御神」、学問の神「菅原道真公」です。

上目黒村の鎮守として人々の生活を見守り続け、目黒川の度重なる氾濫や疫病からも氏子を守ったことから「この神の氏子はいにしえより疫病知らず」と伝えられてきました。現在も悪疫撤退や厄除の神様として崇敬を集め、多くの参拝者が訪れます。

社務所横にそびえる御神木はクスノキで、今から150年ほど前、近所に住んでいた人が植えたといわれています。不思議と成長が早く、手で持てるほどの苗木が今では高さ20mを超える大樹となりました。

境内には2つの末社があります。境内西側に鎮座するのは稲荷神社。御祭神は「宇迦之御魂神」で農耕・産業全般の神様です。初午祭では商売繁盛や家内安全の祈願として、のぼり旗を奉納することができます。

そして本殿を挟んだ境内東側には、目黒富士浅間神社があります。御祭神は鎮火や安産の神「木花咲耶姫命」。歌川広重の作品でも有名な目黒元富士の石祠や石碑が1878(明治11)年にこちらの境内に移され、浅間神社も末社として遷座しました。正面階段の西側には自然の崖を利用した富士浅間神社登山道が作られ、毎年7月1日には山開き神事と浅間神社例大祭が行われています。

正面の石段は1816(文化13)年に小松石で作られました。1905(明治38)年には神社前の大山道(現在の玉川通り)拡張のため、石段を改修。現在は歩道から54段と急勾配ですが、かつては玉川通りの中央付近までゆるやかな石段が続いていたそうです。



ここに注目!

こちらでは氷川神社、浅間神社、稲荷神社の3種類の御朱印が頂けます。カワイイ桜のお守りも!



DATA

ⓧ Ⓞ Ⓛ Ⓜ Ⓜ
東急田園都市線「池尻大橋駅」徒歩約5分
常時
目黒区大橋2-16-21
03(3466)2507

日本民藝館

日用品の中に美を見いだす「民芸」はここから広まった！



1936(昭和11)年10月に柳宗悦^{やなぎむねよし}(1889~1961)と、陶芸家の濱田庄司やイギリス人の陶芸家バーナード・リーチら、その同志たちによる熱心な民芸品の蒐集と研究が、実業家の大原孫三郎^{おおはらまごさぶろう}の財政援助によって進められ、財団法人日本民藝館として誕生。柳宗悦が初代館長となりました。

建物は本館(木造瓦葺^{かわらぶき}2階建)と倉庫(鉄筋2階建)、西館(木造瓦葺^{ながやもん}^{※1}長屋門と木造瓦葺2階建主屋)からなっています。西館の長屋門は1880(明治13)年に栃木県国本村(現宇都宮市の郊外)に建てられたもので、大谷石で屋根を葺いた石屋根造りの建物で、1934(昭和9)年に柳宗悦が現在の場所に移築したものです。また本館は1936(昭和11)年建築で、棧瓦葺^{さんがわぶき}、漆喰塗り込めに大谷石を貼る建物で、造形の規範になっているとして、1999(平成11)年、長屋門と共に国の登録有形文化財となっています。

本館には12,000余点の収蔵品の中から、陶磁器、織物、染物、木工、漆工、絵画、金工、竹、紙、革工芸、彫刻など約1,000点が展示されており、特に朝鮮李朝時代の各種工芸や沖縄の染織類、台湾高砂族^{ばんぶ}^{※2}の蕃布^{しゅうしゅう}、英国中世の陶器などの蒐集に特色があります。

西館横には、阿弥陀種子板碑^{あみだしゅじいたび}と呼ばれる高さ150cmほどの板碑が立っており、上部に阿弥陀如来を示す梵字^{ぼんじ}が彫られています。下部には1262(弘長2)年の年号があり、現在区内にある板碑で最古のものとされますが、元々目黒にあったものではなく、埼玉県坂戸にあったものを石造文化財として移してきた展示資料です。

また、この財団は展示公開のみならず、民芸に関する調査研究や工人の指導、図書の刊行、講演会などを通して、新しい生活工芸品の創造発展を図る仕事もしています。

※1) 長屋門…武家屋敷で敷地の周囲に家臣を住まわせる長屋を建て、その建物の一部に扉をつけて門としたもの。

※2) 蕃布…台湾の先住民が織った、野生の苧麻を原料とする平織りの粗麻布の旧称。



DATA

- 📍 目黒区駒場4-1-33
- 🕒 03(3467)4527
- 🕒 10時~17時(最終入館は16時30分まで)
- 🕒 月曜(但し祝日の場合はその翌日)、年末年始
- 🕒 陳列替えなどに伴う臨時休館有り
- 🕒 京王井の頭線「駒場東大前駅」徒歩約7分

ここに注目！

「民藝」とは民衆の工芸の略で、柳らによる造語。



加賀百万石大名の子孫のお屋敷（重要文化財建造物）

旧前田家本邸（洋館・和館）



旧加賀藩主の系譜をひく第16代当主前田利為公の本邸は、関東大震災の復興計画に関連し、江戸時代より上屋敷を構えていた本郷から駒場へ移転しました。東京帝国大学と土地の等価交換※をした広大な敷地に築かれた駒場本邸は、現在もその規模と形状をよく留めています。洋館と和館が揃って現存しているのも数少ない例であり、近代上流階級の大邸宅の様子を今日に伝えています。2013(平成25)年に、駒場の本邸を構成する八棟(洋館、和館、洋館渡廊下、和館渡廊下、茶室待合、和館門及び塀、門衛所、正門および塀)とその敷地全体が「旧前田家本邸」の名称で国指定重要文化財となりました。

※等価交換…等しい価値を有するものを相互に交換すること。

【洋館】

1929(昭和4)年5月に竣工した建物で、設計者は東京帝国大学教授塚本靖^{※1}となっていますが、実際の設計は技師高橋貞太郎^{※2}が担当したものです。建物は地上3階、地下1階 建築面積は978.25㎡。鉄筋コンクリート造りで、外壁はスクラッチタイルを貼り、アクセントに大華石を使用。屋根は銅板葺で、建物の外観はイギリスチューダー様式^{※3}を基調とした豪華な造りとなっています。この洋館は、大正末期から昭和初期に建てられた大邸宅建築を代表するものの一つで、機能性を重視し、全館暖房設備や地下にあった調理室から1・2階へ料理を運ぶための小型荷物用エレベーターの設置など、当時における最新の技術を駆使しています。

1944(昭和19)年に民間会社を買収され、翌年の終戦後には連合軍に接收、米軍司令官の官邸として使用されました。返還後は敷地を含め公園として整備され、洋館は1967(昭和42)年4月から東京都近代文学博物館として活用されていましたが、2002(平成14)年に閉館し、2014(平成26)年から2016(平成28)年にかけて修理復原工事が行われ、建設当時の雰囲気がよみがえりました。現在は建物内部を一般公開しています。

ここに注目！

大正末期から昭和初期の最新建築技術を駆使して設計され、上流社会の生活をしのぶことができる貴重な文化財。



DATA

- ▲目黒区駒場4-1-55
- 【洋館】
 ① 03(3466)5150
 ② 9時～15時30分
 ③ 月曜・火曜・土曜・日曜・祝祭日の場合は開館、年末年始
 ④ 京王井の頭線駒場東大前駅 徒歩約12分
- 【和館】
 ① 03(3460)6725
 ② 9時～16時
 ③ 月曜・土曜・日曜・祝祭日の場合はその翌日、年末年始
 ④ 京王井の頭線駒場東大前駅 徒歩約8分

- ※1) 塚本靖(1869～1937)…建築家。京城停車場本屋(ソウル駅旧駅舎)など。
 ※2) 高橋貞太郎(1892～1970)…建築家。上高地ホテル、川奈ホテルなど。
 ※3) イギリスチューダー様式…15～17世紀にかけて出来上がった英国の建築スタイル。レンガの煙突などが特徴。

【和館】

隣接の洋館と渡り廊下でつながっている和館は1930(昭和5)年に竣工。木造2階建、建築面積は355.47㎡で、2階に設けられた^{ろうかく}楼閣風の宝形の屋根の外観が特徴的です。設計は塚本靖や佐々木岩次郎^{いわじろう}※1(帝室技芸員)などによるもので、付設する茶室の設計は3代目木村清兵衛^{きむらせいべえ}※2によるものです。

洋館が前田家の家族の居住の場だったのに対して、和館はおもに迎賓の場として使用されていました。

内部は客間が中心で、1階の主室「御客間」は床の間、違い棚、付書院がある書院造り※3で、鴨居の上の欄間には精緻な透かし彫りが施されています。次の間「御次之間」とは続き間となっており、周りを畳廊下や入側※4、縁側で囲い、奥は茶室へと続いています。主室からは風雅な日本庭園を臨むことができ、かつて建物の東側には中国趣味の庭と煎茶室が設けられていたと伝えられています。2階の「御居間」も書院造りで、丸窓や市松の板張り^{ごうてんじょう}格天井※5など、やや数寄屋風の要素が加わった造りとなっています。

- ※1) 佐々木岩次郎(1853～1936)…建築家。帝室技芸員。芝増上寺大殿建築などに参加。
 ※2) 3代目木村清兵衛(1871～1955) …数寄屋大工。芳次郎(3代)は茶屋建築で知られる。
 ※3) 書院造り…書院を建物の中心にした武家住宅の形式。
 ※4) 入側……座敷と縁側との間にある一間(約1.8m) 幅の通路。
 ※5) 格天井……木を組んで格子形に仕上げた天井。

外観

旧前田家本邸の屋敷地は1967(昭和42)年、駒場公園として開園。敷地の全体配置は前田家が移住していた頃の姿を良く残し、正門から洋館玄関までの長いアプローチや洋館南の芝庭、和館の日本庭園は大邸宅にふさわしい造園計画だったといえます。



侯爵家の調度

駒場本邸の家具は雪野元吉^{ゆきの もときち}※が渡英し、イギリスに大使館附武官として駐在していた前田利為侯と打ち合わせた上でロンドンであつらえたものです。洋館の主な家具はイギリスの高級家具メーカーのハンプトン社で製作されました。

※雪野元吉(1897～1945)…建築家。東伏見宮邸、秩父宮邸など。

目黒行人坂大火の犠牲者を慰める石仏群

松林山大圓寺



目黒駅西口から伸びる急な行人坂ぎょうにんざかの途中にあるお寺です。寛永の頃、出羽でわ（現在の山形県）三山さんざんの一つ、湯殿山の修験僧しゅげんそうたちが坂の途中にお堂を建て修行に励み、彼らを「行人ぎょうにん」と呼んだことからその名前が付きましました。かつては江戸の町から目黒不動尊への参詣路として多くの江戸っ子たちが行き交いました。

大圓寺は17世紀前半（寛永年間）、大海法印が春日如来はるつを祀って道場としたのがその始まりとされます。

本堂には木造釈迦如来立像（国指定重要文化財）を安置。1193（建久4）年に高さ162cm余の等身大で作られました。境内には当寺が火元とされる1772（明和9）年2月の目黒行人坂大火の慰霊のために造られたといわれる「大圓寺石仏群」（都指定有形文化財）が残されています。大火は、当時の大圓寺本堂から出火、江戸の3分の1を焼き、多くの死者を出しました。今の目黒から北千住まで燃え広がり、その延焼距離の長さから明暦、丙寅と合わせて江戸三大火の一つと呼ばれています。大火の様子は江戸中期の小説家・大田南畝おおくた なんぼ（1749～1823）の「半日閑話」などにも紹介されています。この火事のため、大圓寺はその後76年間再建が許可されなかったそうです。その理由は、江戸城のやぐらまで燃えたためともいわれています。

本堂正面に安置されているのが「開運招福大黒天」です。徳川家康の指南役として一世を風靡した天海が、徳川家康公をモデルに彫ったといわれています。江戸



DATA

📍 目黒区下目黒1-8-15
📞 03(3491)2793
🕒 8時～17時 休なし
🚶 山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「目黒駅」徒歩約3分

ここに注目！

大圓寺石仏群の中にかくれキリシタンの痕跡？ 石仏群の中に聖母マリアを連想される赤子を抱いた女性や、十字架の入ったしゃく杖を持つ羅漢像も見られます。石の色の違いが見つけるポイント！

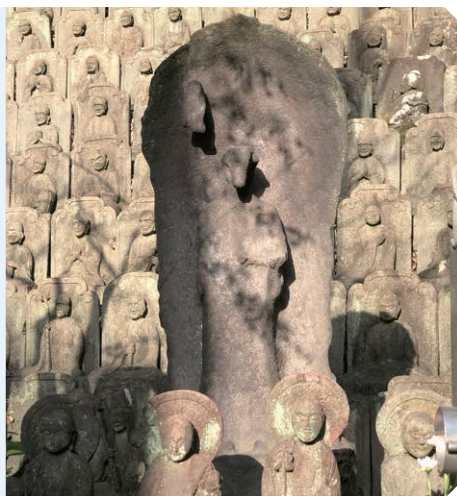


期に隆盛した山手七福神の一つとして信奉を集めました。一方、秘仏として釈迦堂に安置されているのが「大圓寺大黒天」です。伝教大師作と伝わる、左右に弁財天と毘沙門天の顔を持つ三面大黒天で、江戸城の裏鬼門を鎮護するため、比叡山から勧請してお祀りしたといわれます。

また境内には貴重な江戸期の改修事業の資料が残されています。「行人坂敷石造道供養碑」（区指定有形文化財）は参詣道として賑わった行人坂の悪路に苦しむ人々を救おうと行者たちが目黒不動尊や浅草観音に参詣し、人々から受けた報謝を資金に坂の敷石を整備、安全を祈念したと伝えるもので1703(元禄16)年築。また「目黒川架橋供養勢至菩薩石像」（区指定有形文化財）は行人坂の上方にある勢至堂内に安置されている像で、台座からの高さは約170cm。その台座には同じく参詣の行者たちが江戸市民の報謝を受け目黒川の両岸に太鼓橋を架けたことが記されており、1704(宝永元)年に作られました。念仏を唱え喜捨を募り、行人坂改修、目黒川架橋などの事業を行った西運は、悲恋で有名な八百屋お七の相手・吉三が出家した僧といわれます。

とろけ地藏

溶けたような姿から名付けられた石仏ですが、大火で溶けた、あるいは江戸時代に漁師が品川沖で引き上げたことから浸食が進んでいたためともいわれます。悩み事をとろけさせてくれるとして信奉を集めています。



十一面観音像

本堂に安置されているこの観音像は藤原期(894~1167年)の作ともいわれ、高さ167.5cm。廃寺となった明王院に伝わっていたもので、江戸時代の公的出版物「新編武蔵風土記稿」に、明王院の寺宝として紹介されています。

3匹の蛸が支えるユニークな薬師如来
不老山成就院(蛸薬師)



DATA

🏠 目黒区下目黒3-11-11
☎ 03(3712)8942
🕒 9時〜16時30分 ㊟なし
📍 JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線
都営地下鉄三田線「目黒駅」徒歩約10分、
東急目黒線「不動前駅」徒歩約7分



本尊薬師如来

3匹の蛸に支えられる蓮華座に乗る薬師如来。
慈覚大師が帰国の際の故事にちなみ造られた
もので、秘仏のため非公開となっています。



お静地藏

2代将軍秀忠の側室、お静の方が我が子
である保科正之の米達を祈願し、大願成
就のお礼に奉納したもの。そのため子供
の健康・立身出世にご利益があるといわ
れます。

858(天安2)年、円仁(慈覚大師)の開山。本尊は3匹の蛸に支えられた蓮華座
に乗る、ユニークな薬師如来です。開山の慈覚大師が唐への留学から帰国の際、
船が嵐に見舞われました。慈覚大師は身につけていた薬師如来を海に捧げたと
ころ、嵐は静まり無事帰国しました。その後、諸国を説法して巡っていると、肥前
松浦の波間にタコに乗った仏像を見つけます。これは、慈覚大師が帰国の際に海
に投じた薬師如来でした。この伝説から蛸薬師として人々の信仰を集めました。

また、このお寺では真言を唱えながら患部をなでると万病に効くという慈覚
大師が唐から持ち帰った秘法「おなで石」のお守りがあります。

ここに注目！

本尊の秘仏である薬師如来は1月8日の初薬師縁日にだけ御開帳と
なり、ガンやアトピーなど難病の平癒のために信仰されています。



江戸の裏鬼門「山手七福神」の弁財天をお祀りする寺

霊雲山 蟠龍寺



おしろい地蔵

このお地蔵様におしろいを塗り、その残りを自分の顔に塗ると美人になるとのいわれから女性や歌舞伎役者などに信奉されたお地蔵様。昭和の初めに浅草にあった欣浄寺から移されてきたとのこと。



岩屋弁天

本堂脇の岩屋内に祀られている石造りの弁財天像。江戸の人々が無病息災・商売繁盛などを祈願して広まった山手七福神の一つで、1832(天保3)年刊の「東都歳時記」にも紹介されています。



下目黒の山手通りから入った参道の奥にあるお寺で、季節の花を楽しめる小庭園はまさに喧騒を離れた別世界。江戸時代前期の1648(慶安元)年に開創。当初、目黒行人坂付近にありましたが、1709(宝永6)年江戸の裏鬼門を守る現在地に移転再建された際、「霊雲山称明院蟠龍寺」とされました。お寺は浄土宗ですが、修行者に厳しい戒律を定める律院であったことから参道右手には「不許辛肉酒入山門(しんにくしゅさんもんにはいるをゆるさず)」と彫られた結果石が残されています。

本尊は平安時代末期の作といわれる「木造阿弥陀如来坐像」(都指定有形文化財)。境内の最も奥に安置されるのが「山手七福神」の弁財天。岩屋の中には石造の、弁天堂内には木造の弁財天像が祀られています。弁財天を慕って芸術・芸能関係者の信奉が厚く、境内には寺院では珍しく音楽スタジオが設置されています。

ここに注目!

「江戸名所図会」には境内に金銅の阿弥陀如来像が描かれていますが、これは1871(明治4)年にフランスにわたり、現在はパリ市のチェルニスキー美術館に所蔵されています。



DATA

目黒区下目黒3-4-4
 9時~17時
 JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「目黒駅」徒歩約10分
 ⑧ 03(3712)6559

江戸っ子も夢中になった「元祖アーバンリゾート」
泰叡山 瀧泉寺（目黒不動尊）



江戸時代、庶民の多くが参拝に訪れた目黒不動尊。特に正月の「七福神めぐり」では恵比寿神、1832（天保3）年刊の「東都歳時記」には大黒天も目黒不動尊境内に祀られていたとされ、大きな賑わいを見せました。現在も毎月28日の大縁日には、数多くの出店が並び、江戸の昔から続く賑わいを彷彿とさせます。

目黒不動尊は、五色不動（目黒・目白・目赤・目黄・目青）の一つとして江戸城の守護、江戸城の5つの方角の方難除けとして、また江戸を起点とする五街道を守護するスポットとして幕府に重視されていたといわれています。

また、関東最古の不動霊場で、日本三大不動の一つに挙げられています。開創は808（大同3）年に慈覚大師によるものとされ、大師が自ら筆をとった棟札の「大聖不動明王心身安養祝願成就瀧泉長久」から瀧泉寺と名付けられました。

訪れて最初に目に入るのが、仁王門の手前にある「比翼塚」。こちらには日本のロミオとジュリエットともいえる悲恋の物語が残されています。江戸時代、鳥取藩の武士、平井権八は、とあるもめ事から人を殺し江戸に逃れてきました。そこで出会った吉原の遊女、小紫にほれ込んでしまい、小紫に会うためのお金を得るため辻斬り、つまり強盗を繰り返しました。追われる身となった権八は後に、自首し処刑されます。これを知った小紫は遊郭を飛び出し、権八の墓前で後を追うように自らの命を絶ちました。ふたりを哀れみ、来世での幸せを願う人々によってこの塚は建てられました。

つぎに仁王門を通り抜け、男坂と女坂の間にあるのが「鷹居の松」。これは3代将軍家光が鷹狩にきた際、大切な鷹が行方不明になってしまい、鷹が無事に帰って来ることを願ひ目黒不動尊の僧に祈らせたと、たちまち境内の松の木に戻ってきたことからこれを喜び「鷹居の松」と名付けました。このことをきっかけに家光は火災で焼失した建物を修復、荘厳な寺院に繁栄させました。当時の華麗な境内の様子は幕末の絵師・歌川国芳の「目黒不動之図」（1853年・国立国会図書館蔵）などに描かれています。



DATA

● 目黒区下目黒3-20-26
03(3712)7549
● 9時〜17時
● JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「目黒駅」徒歩約20分、東急目黒線「不動前駅」徒歩約12分

ここに注目！

目黒不動尊は江戸五色不動の一つ。目黒のほかには、目白（豊島区）、目赤（文京区）、目青（世田谷区）、目黄（台東区・江戸川区）。



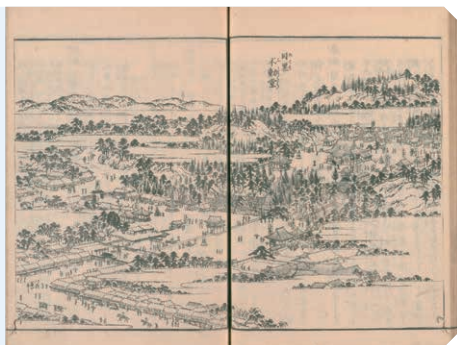
男坂の左手にある湧水・独鈷^{とっこ}の滝は慈覚大師がこの地に寺を建立する際に、敷地を示すために法具である独鈷を地面に突き立てたところ霊泉が湧き出したという言い伝えがあり、近年までこの滝の水を浴びて身を清める水垢離^{みずごり}に使う人がいました。

独鈷の滝の左側にある滝泉寺前不動堂（都指定有形文化財）は、将軍や大名が参詣に来た場合、その間本堂に参詣できない庶民が使ったもので、内には本尊木造不動明王立像などが安置されています。

境内にはまだまだ見どころが多く、甘藷^{かんしょ}（サツマイモ）の栽培を全国に普及させ、大飢饉では多くの人を食糧難から救った青木昆陽^{あおきこんよう}がこの目黒の地を愛したことから、自ら「甘藷先生墓」と記した墓（国指定史跡）とその功績を称える顕彰碑^{けんしょうひ}があります。今でも墓前にサツマイモが供えられ、毎年10月28日^{こんようせんせいほうおんかんしやほうよう}の「昆陽先生報恩感謝法要（甘藷まつり）」が盛大に開催され、多くの人々に賑わいます。

「江戸名所図会」(1836/天保7年) に描かれた瀧泉寺

江戸後期に描かれた江戸の観光ガイドブックの元祖「江戸名所図会」では、本堂を中心に数多くの堂塔が立ち並び、この時期の瀧泉寺の威容を見ることができます。



歌川国芳の「目黒不動之図」 (1853/嘉永6年・国立国会図書館蔵)

歌川広重とともに幕末の目黒の姿を数多く残した絵師・歌川国芳。赤く大きな仁王門と本堂に続く石段、左手の独鈷の滝と思われる行場には水垢離^{みずごり}をする人々も描かれています。

さんのうとりい 山王鳥居

お寺なのに鳥居が?と思われるかもしれませんが、かつての神仏習合の名残で鳥居の礎石だけが残っていたところに再建されたものです。その昔、麦打歌で「一に大鳥、二に不動、三に金毘羅」と歌われたほど目黒三社として賑わいました。



身近にあるのに意外と知らない寄生虫の未知なる世界へ

目黒寄生虫館



世界的にも珍しい、寄生虫学専門の研究博物館。寄生虫症がまだ国内でありふれた病気だった1953(昭和28)年、寄生虫学の研究と地域社会への啓発を目的として、医学博士の^{かめがいさとる}亀谷了(1909～2002)が私財を投じて創設しました。多くの寄生虫研究者から資料の寄贈を受けながら発展を続け、1993(平成5)年に現在の6階建てのビルが完成。今日では、家族連れ・カップル・修学旅行生・外国人観光客など、老若男女が訪れる人気の施設として知られています。

展示室は1階と2階で、国内外から集められた約300点の液浸標本や関連資料が並んでいます。パネルや動画、タッチパネル等を用いて、寄生虫について一から学べる博物館です。常設展示だけでなく、特別展示の開催や講演など、様々な活動を行っています。それだけの展示内容にも関わらず入館料を設けていないのは、亀谷の強い信念を受け継いだもの。しかし、博物館の基本財産のみの経営には限界があるので、積極的に寄付を募っています。

同名の公益財団法人が運営する目黒寄生虫館の事業は、展示だけではありません。日々の研究活動を通じて寄生虫学の発展に努めています。収藏品は標本約60,000点、図書文献約16,000冊にのびります。なかでも寄生虫分類学に多くの業績を残した、医学博士・理学博士の^{やまぐち さちゅう}山口左伸(1894～1976)と縁が深く、多数の資料が寄贈されました。これらは適切に管理され、館内外の研究に活用されています。

また、ガイドブックや定期刊行物を刊行しており、グッズや書籍類とともに、ミュージアムショップで購入できます。見学後もお家で寄生虫学に触れてみてはいかがでしょうか。

ここに注目！

LEDに照らされた標本瓶は壮観。多様な寄生虫の形をじっくりと観察することができます。



DATA

● 目黒区下目黒4-1-1 (03(3)716)12664
10時～17時
● 月曜・火曜(但し祝休日の場合はその翌日・年末年始)
● JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・
都営地下鉄三田線「目黒駅」徒歩約12分、
または東急バスで「大鳥神社前」下車徒歩約1分

おおとりじんじゃ
大鳥神社
目黒区最古の神社



きりしたんとうろう
切支丹灯籠

さお石の部分に十字模様や像が刻まれ、これをキリストに見立てて崇拝したもので、もとは目黒村の肥前島原藩主松平主殿頭の下屋敷内にあったものとされています。



だいだいかぐら
太々神楽
「熊手の舞」

やまとたけるのみこと
日本武尊が現在の焼津市で火攻めにあった時、熊手をもって火を防ぎ九死に一生を得て賊を平定したという神徳をたたえる舞です。

目黒駅から目黒通りを西へ、山手通りと交わる角にある神社です。創建は平安時代初期の806(大同元)年で区内最古の神社です。祭神は日本武尊を主神とし、国常立尊と弟橘媛命を合祀しています。この神社は毎年ニュースにもなる西の市が有名で、毎年11月に開かれ多くの参拝客で賑わいます。その時に「熊手の舞」が舞われます。歴史も古く、境内には1835(天保6)年の西の市に神楽を奉納したことを記念する神楽塚があります。

御神木の大銀杏は昭和初期に目黒川の河川改修の際、切り倒されることになったものを熱心な町民運動により神社へ献木されたものです。空襲による戦火をも耐え抜いた奇跡の名木です。

ここに注目！

大鳥神社の「大鳥」は日本武尊が亡くなった際、魂が大きな白鳥になって飛び去ったとの逸話にちなんだ名前です。



DATA

📍 目黒区下目黒3-1-2 ⑩ 03(3494)0543
⌚ 常時 ⑨ なし
🚶 JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「目黒駅」徒歩約10分

目黒区美術館

近現代アートをもっともっと身近に楽しめます



所蔵作品

明治以降、日本人が海外に学んで制作した作品、特に作家が自己のスタイルを模索する過程から生まれた作品群や、目黒ゆかりの作家の作品などを中心に所蔵。天井まで届く鉄のオブジェが印象的で、美術館も一つの作品であるかのようです。

区民ギャラリー

ここは区民の方はもちろん、区民以外の方にも作品発表の場として貸し出している有料のスペースです。地下1階にA面とB面の展示室があり、絵画、彫刻、書、工芸、立体、映像など美術に関するものを展示することができます。



DATA

📍 目黒区目黒2-4-36 (03-3714-1201)
🕒 10時～18時(最終入館は17時30分まで)
🗓 月曜(但し祝日の場合はその翌日、年末年始12/28～1/4) 展示替期間
🚶 JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「目黒駅」徒歩約10分、東急東横線・東京メトロ日比谷線「中目黒駅」徒歩約20分

緑豊かな目黒区民センターの一角に1987(昭和62)年に開館した美術館です。地域の人々との密接な関わりを重視しながら「幅広い視野からとらえた様々な美術作品」を紹介しています。近現代の日本の作家における美術作品や目黒区にゆかりの深い作品などを所蔵作品展で公開するほか、内外の多様な美術の動向をとらえた企画展を積極的に開催しています。

現在美術館のコレクションは約250名の作家、2,000点以上の作品です。生活の中の美や、作品の成り立ちと素材・技法に目を向けるワークショップも好評で、展示と体験活動を融合させる新たな試みとして注目されています。また、本館エントランスにあるミュージアムショップも人気で、目黒区美術館のコレクションをテーマにしたオリジナルグッズや展覧会関連グッズ、雑貨、お子様向けのおもちゃなどが購入できます。

ここに注目!

洗練された空間の中、近現代アートを中心に数々のコレクションを展示。草間彌生や東山魁夷の作品も所蔵しています。





外観



五百羅漢坐像

目黒不動尊の北東に位置するお寺で、300体を越える五百羅漢坐像が有名です。羅漢とはお釈迦様の弟子のことで実在した人物といわれ、五百羅漢はお釈迦様が亡くなったときに集まった500人の弟子がモデルとされています。

一見お寺とは思えない、新しい博物館を思わせるアーチ状の山門をくぐると、境内にみえる現在のお堂は1981(昭和56)年に建てられたものです。1695(元禄8)年本所五ツ目(現在の江東区)に創建。徳川5代將軍綱吉、さらに8代將軍吉宗の援助を得て「本所のらかんさん」として江戸の人々から親しまれ、繁栄を遂げますが、その後、廃仏毀釈などにより移転、目黒に落ち着いたのは1908(明治41)年になります。一時無住となりましたが、新たな貫主により再興され今に続いています。

階段を登り寺務所の前を通ると広場があり、右手に続く建物が有名な羅漢堂です。現在305体が安置されている五百羅漢坐像は、京都出身の禅師・松雲元慶(1648~1710)が出家後全国遊行した際、現在の大部分の羅漢像で見た羅漢像に触発されて五百羅漢像を自分で彫刻しようと誓い、江戸浅草で着工、多数の人々の寄付を得て、十余年を費やしひとりで釈迦三尊像以下536体の羅漢像を完成しました。これを安置するために幕府の援助も得て建てたのが本寺です。羅漢像は一体ごとに表情が異なりそれぞれにお言葉がつけられています。また、羅漢像の中にある病を払う神獣「獼猴王像」(白澤)は必見。アマビエと同じく病魔を防ぐ力があるといわれ、昔から流行り病のときには多くの人が白澤の絵をお守りとして飾りました。

羅漢堂左手建物内部にあるのが「聖宝殿」。元禄当時の羅漢像造立のための寄進帳や寺内の合図に使った大きな魚板など江戸から続く歴史資料を多数展示、五百羅漢寺と人々とのつながりを示すものばかりです。特に浮世絵に描かれる当時の五百羅漢寺は注目です。本所での創建当時の境内には螺旋状に階段を登りつつ堂内の諸仏を参拝できる建物があり、これがとても評判で、この建物は現存しませんが、葛飾北斎が「富嶽三十六景」に描いており当時の寺の姿を知ることができます。

境内一番奥に位置する本堂には本尊の釈迦如来像が羅漢さんたちと一緒に祀られており、お釈迦様が説法されている光景が再現されています。

ここに注目!

境内には会席料理を楽しめるらかん亭と、ランチや喫茶を楽しめるらかん茶屋があり休憩にはもってこい!山門に入って右手の建物内です。



天恩山 五百羅漢寺(羅漢寺)

様々な表情をもつ300体あまりの羅漢像が圧巻



DATA

⬆ 目黒区下目黒3-20-11 ⑨ 03(3792)6751
 ⑩ 9時~17時(最終拝観受付は16時30分まで)
 JR山手線 東急目黒線 東京メトロ南北線
 都営地下鉄三田線 目黒駅 徒歩約12分
 東急目黒線 不動前駅 徒歩約8分

ホテル雅叙園東京「百段階段」

受け継がれし日本美を今に伝える豪華絢爛な美術の殿堂



東京で屈指の人気を誇る、ホテル雅叙園東京。創業者・細川力蔵が、芝浦にあった自宅を改築した純日本料亭を、1931(昭和6)年より多くの人々に本格的な料理を気兼ねなく食べていただくため、気軽に入れる料亭として目黒の地に誕生しました。

来店者に味だけではなく目でも楽しんでもらうため、館内は芸術家たちに描かせた壁画や天井画、彫刻などで装飾され、人々から「昭和の竜宮城」と謳われる、東洋一の美術殿堂が誕生しました。

現在はその伝統と経験から積み上げられた「日本美のミュージアムホテル」をコンセプトに、絢爛豪華な美術・工芸品、時を経て洗練された文化財が人々を迎えています。

そんなホテル雅叙園東京の中でも、とりわけ豪華で優美な施設が「百段階段」です。百段階段とは通称で、ホテル雅叙園東京の前身である目黒雅叙園3号館にあたります。1935(昭和10)年に建築された、ホテル雅叙園東京の中で現存する唯一の木造建築です。館内でまず目に入るのは、厚さ約5cmのケヤキ板が使用された99段の長い階段廊下。時を経るごとに風合いを増すこの階段は、登る度に天井の絵画が変わり、訪れる人を楽しませてくれます。そしてこの階段廊下に繋がっているのが、それぞれ趣向の異なる7つの部屋。この部屋は昔、晴れやかな宴に使われていたものであり、天井や欄間には、当時屈指の著名な画家達が創り上げた美の世界が描かれています。

最近の研究によると、この豪華な装飾は桃山風、更には日光東照宮の系列、あるいは歌舞伎などに見られる江戸文化に属するものだといえます。「百段階段」はその装飾の美しさから見ても、伝統的な美意識の最高到達点を示すものと考えられ、2009(平成21)年3月、東京都の有形文化財に指定されました。現在は展示会などのイベントや限定ツアーにて一般公開されています。

ここに注目！

太宰治^{だざいし}の短篇「佳日」の中で結婚式が行われる料理店として登場することでも知られています。
※太宰治(1909~1948)…小説家。「人間失格」など。



DATA

- ★ トピック
- ① 目黒区下目黒1-8-11 03(5434)3140
- ② 12時30分~18時(最終入館は17時30分まで)
- ③ ※企画展開催時のみ公開
- ④ JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「目黒駅」徒歩約3分



郷さくら美術館
一年を通じて満開の桜を大画面の日本画で楽しめる美術館



コレクション ▲中島千波「櫻雲の目黒川」2013年

「一年を通じて満開の桜を日本画で楽しんで頂く」というコンセプトに基づく美術館。展示室は4室あり、常設展示のほかにも、企画展や展覧会が一年に4、5回開催されています。

外観

目黒川の自然景観とマッチする美術館の外観は、有孔タイルの持つ光と空気の流れを大切に洗練されたデザインが印象的です。2012年にはグッドデザイン賞を受賞しました。

桜の季節には大勢の花見客で賑わう目黒川のほとりに、現代日本画の専門美術館として、2012(平成24)年3月に中目黒に東京館として開館。展覧会ごとにテーマを設定した「コレクション展」という形式で収蔵作品を一般公開しています。特に昭和以降生まれの日本画家の作品を中心に現代日本画の魅力に触れる場として、さらに活躍中の日本画家の支援活動を目的に誕生しました。

展示室には毎回40点余りの作品が展示されており、繊細な日本画を親密な空間で楽しめるような展示が心掛けられています。また、「一年を通じて満開の桜を日本画で楽しめる」というコンセプトに基づき、桜がモチーフの屏風作品を含めた50号以上の大作十数点を常設する展示室を設けており、大画面の現代日本画による雅やかで華やかに展開する桜の空間を堪能することができます。

ここに注目！

桜をモチーフにしたオリジナルグッズを買うことができます。



DATA

- 📍 目黒区上目黒1-7-13
- 🕒 03(3496)1771
- 🕒 10時〜18時(最終入館は17時30分まで)
- 🕒 月曜(但し振休日の場合はその翌日)、年末年始、展示替え期間
- 🚶 東急東横線・東京メトロ日比谷線「中目黒駅」徒歩約5分

多数の寺宝が物語る江戸の町人文化

明顕山 祐天寺

みょうけんざん ゆうてんじ



東急東横線の駅名にもなっている祐天寺は1718(享保3)年、同年に亡くなった祐天上人の遺言である「念仏道場を建てて欲しい」という願いにより、その高弟の祐海上人が開創。

賑やかな駒沢通りから国登録有形文化財の表門を入ると一転して静かな境内。正面の仁王門(区指定有形文化財)は1735(享保20)年、5代將軍綱吉の養女・竹姫寄進のもの。細かな絵様なども大きな変更もなく創建当初の姿を伝えています。彫刻が有名で、^{かえるまた}蟻股^{※1}にあるのは方位を示している十二支。中央部の内側には正面に^{きりん}麒麟^{※2}、背面に^{かいば}海馬の二神獣が彫られています。両側の仁王像は高さ約2.6mの^{あぎょう うんぎょう}阿形と吽形の2体で、本堂の木造祐海上人坐像(区指定有形文化財)も手がけた大仏師・竹崎石見の作と伝わります。

仁王門右手にある「かさね塚」は歌舞伎舞踊「^{いろもようちやうっかりまめ}色彩 間 刈豆」にちなんだものです。^{しもうきのくに}下総国(現在の茨城県)に、百姓の夫婦がおり、妻には「助」という醜い顔の男子の連れ子がおり、夫は「助」の醜さを疎ましく思ったため、妻が川に突き落として死なせたそうです。その後生まれた女子「累」は「助」の生き写しだったため村人は因果を感じて累を「かさね」と呼びました。時は移り累は流れ者の与右衛門を婿に迎えました。醜さを疎ましく思った与右衛門に殺されてしまいます。後妻に入った女も次々に亡くなり、6人目の女が産んだ「^{きく}菊」にある日異変が起こり、与右衛門に自分は以前殺された累である旨を告げ、菊を苦しめました。

困った村人は近くの寺の修行僧に除霊をお願いします。僧は念仏と戒名を授け累を成仏させました。すると今度は助が現れて菊を苦しめるので、古老の話を聞きつつこちらにも念仏と戒名を授けて成仏させると漸く菊は正気を取り戻した、とのことで、その僧が祐天上人だったとの伝説が残されています。この物語は江戸時代に広く世間に知れ渡り、怪談噺や映画の題材としても度々取り上げられています。境内の仏舎利殿にある「かさね大絵馬」はかさね塚建立60周年の1986(昭和61)年に制作されたものです。



DATA

目黒区中目黒5-24-53
 東急東横線「祐天寺駅」徒歩約8分
 常時
 03(3712)0819

仁王門を抜けて本堂前から左手の墓地の中心にあるのが、祐天上人墓(都指定文化財旧跡)。台石には祐天上人の略歴と祐天寺開創の由来が書かれています。国登録有形文化財の本堂には木造の祐天上人坐像(都指定有形文化財)と祐海上人坐像が安置されています。

本堂前の賽銭箱に注目してみましょう。当寺は江戸の町火消にゆかりの寺として知られています。これは一説によると祐天上人が、増上寺の住職であったころ火消し組織を確立し、これが江戸の町火消しの原型となったことに由来すると伝えられています。ほかにも地藏堂内の格天井^{※3}など、お寺のあちこちに纏^{※4}を見つけることができます。

また、当寺は目黒不動尊と並んで將軍の鷹狩の御膳所^{※5}として使われるなど、將軍家と関係のある寺として栄えてきた歴史があります。本堂は1894(明治27)年の火災後、1898(同31)年に本堂後方に建立されていた徳川將軍家代々の御霊殿を曳き移し、本堂の一部としました。堂内に徳川家の葵紋付きの唐破風が遺っているのはそのためです。

※1) 臺股……横木に設置し、荷重を分散して支えるために、下側が広がっている部材。

※2) 麒麟……中国神話に現れる伝説上の動物で泰平の世に現れるという。

※3) 格天井……木を組んで格子形に仕上げた天井。

※4) 纏……(町)火消の組のしるしで、さおの先に飾をつけたもの。

※5) 御膳所……鷹狩のおり、將軍が休息と食事をする場所。

かさね塚

1926(大正15)年に建てられた累の供養碑。江戸時代以降広く話が知られ「累物」と呼ばれる歌舞伎作品や落語の怪談「真景累ヶ淵」、映画に取り上げられました。供養と安全祈願に歌舞伎役者などが公演前にお参りしています。



祐天寺海難供養碑

(左:灘目の海難供養碑、右:白子組の海難供養碑)

江戸時代に「灘の樽回船」と江戸の木綿問屋仲間「白子組」の回船が度々沈没し、その遭難者の慰霊のために建てられた供養碑。その碑文からは当時の度重なる海難の事実を知ることができます(区指定有形文化財)。

ここに注目!

阿弥陀堂には享保の上棟時、1854(嘉永7)年および1932(昭和7)年の計3枚の棟札^{むねふだ}※が小屋裏に残されており、創建時の姿を「技術のリレー」によって現在に伝えています。

※棟札……寺社・民家など建物の建築・修築の記録・記念として、棟木・梁など建物内部の高所に取り付けた札。



母の想いを今に伝える仙台・伊達家ゆかりの寺

実相山 正覚寺



写真：岡庭璃子（株式会社日本デザインセンター）

中目黒駅から山手通りを南へ。駒沢通りと交わる角のお寺です。重厚な山門をくぐると広々とした境内が広がります。境内で最初に目につくのは、鐘楼の横にある3mを超える和装の美しい三沢初子の像です。

初子は仙台藩伊達家3代目藩主綱宗の側室、浅岡の局で4代目藩主綱村の母です。夫である綱宗は、その素行の悪さにより幕府から強制的に隠居をさせられてしまい、その後を継いだのは綱宗と初子の子である亀千代でした。亀千代はわずか2歳で4代目藩主綱村となりました。初子は幼くして藩主となったわが子を想い、その身の安全を鬼子母神像に願いました。

この母の想いは叶い、綱村は権力闘争であるいわゆる「伊達騒動」も乗り越え、後に名君と呼ばれるほど立派に成長しました。お寺にある三沢初子像や、初子が祈念した鬼子母神像は、今も昔も変わらない母が子を想う気持ちを伝えています。初子が亡くなった後、伊達家下屋敷にあった初子の邸宅が寄進され、その部材を使用した本堂や鬼子母神堂などに伊達家の家紋を見ることができま

す。本堂の左手、アーチ状の入口を入った墓地に初子のお墓（都指定文化財旧跡）があり、子である4代目藩主綱村も母を弔うため寺に特別な保護を与えたことから、正覚寺は仙台藩伊達家と関わりの深い寺となっています。なお正覚寺は1619(元和5)年、日栄上人により開山された日蓮宗のお寺で、2019(令和元)年に400周年を迎えました。

ここに注目！

世界三大荒行に挙げられる日蓮宗の修行を達成しないと
できない木剣加持というご祈祷が受けられます！



DATA

- 📍 目黒区中目黒3-1-6
- 🕒 03(3712)6797
- 🕒 常時 休なし
- 🚶 東急東横線・東京メトロ日比谷線「中目黒駅」徒歩約5分



中目黒八幡神社

なかめぐろはちまんじんじや

秋の例大祭で「江戸の里神楽」が奉納される旧中目黒村の鎮守



例大祭神楽奉納

毎年9月第四土・日曜日に開催される例大祭で、土曜日の宵宮にて稚児舞「浦安の舞」が奉納されます。翌日日曜に「江戸の里神楽」が奉納され、合わせてお神輿が周辺を練りまわる神輿渡御が行われます。



さざれ石

参道石段の左側にあるのが国歌にも歌われる「さざれ石」。1996(平成8)年に本殿の昭和造営60周年を記念して置かれました。記念碑の文字は秩父のパワースポットで当社とゆかりのある宝登山神社の当時の宮司さんによるものです。



DATA

目黒区中目黒3-10-5
 03(3712)5507
 常時開館
 東急東横線東京メトロ日比谷線「中目黒駅」徒歩約9分

中目黒駅から山手通りを南へ、駒沢通りを右折して最初の信号を左折してしばらくすると右手にある神社です。旧中目黒村の鎮守で、祭神は誉田別命(応神天皇)を主祭神とし、天照大神を合祀しています。この神社は9月の例大祭で奉納される神楽が有名。目黒区内では、ほかにも下目黒の大鳥神社や自由が丘の熊野神社など神楽を奉納する寺社がありますが、この神社はかつては十二座の神楽を奏することで知られていました。

本殿の左側には神社の縁起などが刻まれている1926(大正15)年建立の八幡神社の碑があります。また参道には国歌「君が代」に登場する「さざれ石」が配されています。

ここに注目！

中目黒にありながら都会の喧騒を忘れる自然豊かな境内。なんと野生のタヌキが参拝に来ることも！



熊野三山ゆかりの神社は「縁結び」の利益でも有名

自由が丘熊野神社



目黒ばやし（区指定無形民俗文化財）

百数十年の歴史をもつこのお囃子は、江戸の祭囃子の本流というべき神田囃子のリズムや旋律を忠実に伝え、技術練磨に励む人々の創意工夫によって目黒独特の郷土色が織り込まれた貴重な民俗芸能です。現在3つの認定された保存会により熊野神社、碑文谷八幡宮、八雲氷川神社の例大祭などで演奏されています。

自由が丘の祖、栗山久次郎翁の像

1889(明治22)年に市制町村制によって碑文谷村と衾村が合併して碑衾村が成立しました。同年に発足した碑衾村の村長を20年に渡り務める事になったのが栗山久次郎。自由が丘の祖とも云える人物で、現在も当社境内に栗山久次郎の銅像や顕彰碑が建っています。



DATA

目黒区自由が丘1-24-12
 03(3717)7720
 常時 営業
 東急東横線 東急大井町線「自由が丘駅」徒歩約3分

自由が丘の旧地名である谷畑地域の鎮守で、伊弉冉尊・速玉之男尊・泉津事解之男尊を祭神とし、「谷畑の権現さま」として親しまれてきました。中世から近世にかけて熊野信仰*が高まったことから、熊野本宮の御神霊を拝受して祀られたと思われる、創建は不詳ですが鎌倉時代以前と伝えられています。

現在の本殿は1909(明治42)年、拝殿は1967(昭和42)年の改築で、境内に建つ赤鳥居は1823(文政6)年のものです。本殿の上部に隠れハートのモチーフがあることから「縁結びの神様」として人気になっています。また、社殿右側には倉稲魂命を祀る農業の神さま「伏見稻荷」や、自由が丘の祖である栗山久次郎翁の像もあります。

毎年9月の例大祭には、神楽殿で区指定無形民俗文化財の「目黒ばやし」が奉納されています。

*熊野信仰…和歌山県の熊野三山に対する信仰。平安から鎌倉時代に流行した。

ここに注目！

世界文化遺産熊野本宮に起源をもつ「谷畑の権現さま」。縁結びの神様として人気です。

八雲氷川神社

古くから多くの人たちに信仰されている「癩封じの神様」



アカガシの巨大な株

癩封じの御神木のアカガシ。癩封じの御利益があるとして信仰を集め、煎じて薬にしようとアカガシの皮を剥ぐ参詣者が跡をたななかったため、枯死してしまつたと伝えられています。現在は枯れてしまいましたが、社殿の裏に巨大な株が祀られています。



子を抱いた狛犬

境内には絵馬堂や子を抱いた一対の狛犬、天邪鬼が四隅を担いでいる水鉢などがあります。



DATA

目黒区八雲2-4-16
 03(3717)1601
 常時
 東急東横線「都立大学駅」徒歩約5分

ふすまむら 衾村の鎮守で、祭神は素戔鳴尊、稲田姫命、大己貴命。創建の年代は不詳ですが、1757(宝暦7)年に「鎮守氷川宮」の鳥居が建立されたことや1787(天明7)年の「鎮守 氷川宮御宮」の建築について記された文書が残されています。

古くから「癩封じの神」として広く信仰され、遠くからも参詣人がつめかけたといわれています。「癩」とは腹部などの痛みのことで、神木のアカガシの皮を煎じて飲むと効くといわれましたが、今は枯木の株が現存するのみです。また、境内には絵馬堂や子を抱いた一対の狛犬、天邪鬼が四隅を担いでいる水鉢などもあります。

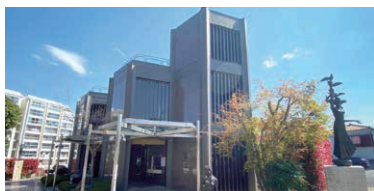
9月の祭礼には、神楽殿で素戔鳴尊の八岐の大蛇退治の物語を表した古式豊かな「剣の舞」が奉納されます。

ここに注目！

癩封じの御利益があるとして信仰を集め、今なお多くの参拝者が訪れる八雲の鎮守様です。

彫刻芸術を身近な存在として鑑賞し
楽しむことができます！

現代彫刻美術館



外観



展示場

20世紀後半以降の日本の彫刻家たちがどのような作品を創造したのか記録すると同時に、若い彫刻家たちに作品展示の場を提供したいとの思いと、少しでも多くの方々に彫刻の素晴らしさに触れ、楽しんでいただけるようお願いを込めて浄土宗寺院である長泉院の教化事業の一環として開館された彫刻専門の美術館です。この寺院隣接地を美術館専用の敷地として計画し、1978(昭和53)年5月に第1、第2野外展示場が開設、1982(昭和58)年3月には、本館建物が完成しました。さらに1987(昭和62)年7月に第3野外展示場を、2003(平成15)年9月には野外企画専用の第4展示場が増設されました。

閑静な住宅街の中に、上空から見ると六角形を組み合わせたようなグレーにマ호가ニーレッドの御影石貼りのモダンで印象的な本館を囲むように野外に4つの展示場があり、20世紀後半以降の日本の彫刻家による作品を鑑賞することができます。

本館と野外展示場には、1960年から2015年までの制作年を中心に、舟越保武^{※1}、朝倉響子^{※2}、舟越桂^{※3}、空充秋^{※4}、田中毅^{※5}、菅原二郎^{※6}、堀口泰造^{※7}、峯田敏郎^{※8}、鈴木武右衛門^{※9}、川崎普照^{※10}、三木俊治^{※11}ら、国内を代表する作家156名から新進気鋭の作家の企画展示など、約200数十点の個性あふれる作品が展示されています。

高峰山長泉院は、浄土宗の刷新のために律院^{※12}として1761(宝暦11)年に建てられたものです。当時、この寺は「新寺」と呼ばれていたことから、今も「しんでら」という呼称が残っています。増上寺第45世の大玄和尚が豪商北川保久仙らの協力を得て開山し、1767(明和4)年に本堂と庫裏、鐘楼などを新築、その後、1789(寛政元)年には寺域を拡張して大きく発展。その頃より境内は目黒川右岸の台地にひろがり、古木が茂り、斜面には堂塔が整いました。常行念仏の道場にふさわしく「江戸名所図会」にもその様子が描かれています。

- ※1) 舟越保武(1912～2002)…東京芸術大学名誉教授。「たつ子像」(田沢湖畔)など。
- ※2) 朝倉響子(1925～2016)…彫刻家・朝倉文夫の次女。「WOMAN」(町田駅北口)など。
- ※3) 舟越桂(1951～)…神秘的で繊細な表情の半身像が印象深い。
- ※4) 空充秋(1933～)…石のスピーカーは1964年の東京五輪で選手村に展示。
- ※5) 田中毅(1951～)…ポップでユーモアあふれる作品。
- ※6) 菅原二郎(1941～)…大阪芸術大学名誉教授。二科会彫刻部代表。
- ※7) 堀口泰造(1916～)…抑留体験からの虜囚の像で知られる。
- ※8) 峯田敏郎(1937～)…ロダン大賞展彫刻の森美術館ほか多数。
- ※9) 鈴木武右衛門(1949～2014)…古代ギリシアの大大理石彫刻を思わせる秀作多数。
- ※10) 川崎普照(1931～)…1998年「大地」で日本芸術院賞受賞。
- ※11) 三木俊治(1945～)…行列する人々をモチーフにした蠟型彫刻で知られる。
- ※12) 律院…戒律を遵守するものの住する寺院の呼称。



DATA

- 📍 目黒区中目黒4-12-18
- 🕒 10時～17時(最終入館は16時30分まで)
- 📞 03(3792)5858
- 🚶 徒歩約16分
- 🚶 東急東横線「祐天寺駅」徒歩約16分
- 🚶 月曜(但し祝休日の場合はその翌日)
- 🏠 美術館 博物館

ここに注目！

写真映える野外展示場はファッションショーの会場として利用されたことも。



碑文谷八幡宮

「碑文谷」の地名の由来がここに！



碑文谷の地名の由来 とされる碑文石

緑に囲まれた社殿の横に正面ガラス張りの小さな保存庫に納められている社宝の「碑文石」。「碑文の彫った石のある里(谷)」ということから碑文谷の地名の起源をなすものともいわれています。



勝海舟直筆の幟

碑文谷八幡宮には社宝が3点あり、「碑文谷の地名の起源をなす碑文石」のほかにも、勝海舟直筆の「八幡大神」の額、「奉献八幡満津里氏子中」と書かれた幟が所蔵されています。

旧碑文谷村の鎮守で、祭神は応神天皇です。鎌倉時代に源頼朝の重臣だった畠山重忠(1164～1205)の守護神を、碑文谷村の宮野左近がここに祀ったのが起源だと伝えられています。社殿は1674(延宝2)年に建てられたもので、その後1872(明治5)年に再建され、1887(明治20)年に改築されました。社殿の右側には重忠の臣、榛沢六郎を祀った稲荷社があり、また碑文谷の地名の由来とされる梵字※を刻んだ「碑文石」が保存されています。

玉垣と緑豊かな木々に囲まれた境内には、目黒区の保存樹林第一号に指定された大樹が茂っており、春には一の鳥居から二の鳥居まで、参道の両側の桜が見事な花のトンネルをつくることでも知られています。また、多くの露店が並ぶ9月の秋季例大祭は賑わいを見せます。

※梵字…古代インド語を表す文字のことで、梵語(サンスクリット語)を書き表す際に用いた文字。



DATA

目黒区碑文谷3-7-13
 03(3717)6412
 常時 ⑧なし
 東急東横線「学芸大学駅」徒歩約15分

ここに注目！

「碑文谷」という地名の起こりに2つの説!? 板碑の多い谷(里)という説も合わせて楽しみたい!

時代を越えた職人のリレーが受け継ぐ建築美

経王山圓融寺

きょうおうさんえんゆうじ



23区内で現存する最古の木造建築である本堂（国指定重要文化財）の美しさで知られるお寺です。重厚な山門を入ると正面に仁王門（区指定有形文化財）、本堂奥の阿弥陀堂前にはお釈迦様が悟りを開かれた菩提樹の木があります。また春には桜が境内を彩ります。853（仁寿3）年、慈覚大師の開基。本堂は室町時代の建物で唐様建築に和様を取り入れた単層入母屋造りで、屋根の起破風が美しいカーブを描いており、職人技を感じます。

この本堂には職人の粋な心意気を伝えるエピソードがあります。それは、戦後間もない頃、圓融寺の本堂（釈迦堂）は約十年かけて大規模な復原修理が行なわれました。その際に屋根裏の一番奥の柱に創建時に刻まれたとされる文字が発見されました。そこには「我が手よし 人見よ」というたった一言で、人名も年号もありませんでした。その発見から三十年ほどたったある日、復原修理の棟梁が訪れ、住職に「実は釈迦堂の屋根裏には、もう一つ文字が刻まれている」と語りました。住職は「そんな報告はありませんでしたが?」と、よくよく聞いてみると「実はわたしの仕業です」とまさかの告白。「我が手よし 人見よ」の文字を見た瞬間、どうしても衝動に駆られて自分からの返事をしなければならないと思ったそうです。「で、なんと彫ったのですか?」と住職がたずねると「その手よし 我は見たり」と答えたそうです。

室町時代に本堂を建てた棟梁と、復原修理を行なった棟梁の六百年以上もの時を超えた対話が、修復後三十年経ってようやく私たちの知るところとなった瞬間でした。

ここに注目!

江戸時代に空前のブームとなった黒仁王。これを題材にした文学作品は多く、特に黄表紙といわれる現在でいう大人向けの漫画に江戸庶民の姿が描かれています。



DATA

📍 目黒区碑文谷1-22-22
☎ 03(3712)2098
🕒 常時 休なし
🚶 東急東横線「学芸大学駅」徒歩約15分



宮野古民家自然園

江戸時代からの面影が色濃く残る緑豊かな古民家園

宮野家の主屋とその周辺環境を保全し、地域文化の高まりに寄与することを目的に、1995(平成7)年5月に開園した自然園です。園に残る宮野家主屋(区指定有形文化財)は創建以来、主要構造部の改築や移築はなく、当時の姿を今日に伝える貴重な建造物だとされています。

主屋建物の南面には庭があり、^{いりもや}入母屋造りの主屋を中心に、独立した民具展示室や五右衛門風呂とかまどを配した離れ、茶室、^{ほこら}祠などが点在しています。往時の茅葺^{かやぶき}だけは銅板葺^{どうばんぶき}に改められ、その葺き替えの際に化粧隅木^{すみき}※1と化粧垂木^{たるき}※2が新たに付け加えられました。

主屋の間取りは四ツ間取り型からなっており、畳敷きや板敷で構成されている東側部分も当時は土間であったことが、その痕跡からうかがうことができます。主屋が建てられたのは、江戸時代中後期の寛政期(1789～1801年)以前と考えられており、現在の居間や台所に10畳の規模を置き、その桁行き間の割り付けは実寸で2.5間を2つ割りにするなど、当時の新しい設計技術を使って設計されています。その一方で大黒柱級の太い柱材を梁行き方向に三本並べるなど、昔ながらの広間型の平面における柱配置を残しており、新旧の建築技術が見事に混在しているのも特徴です。

主屋建築と前後して植えられた屋敷林の本数は約200本で、往時の原型をとどめる屋敷林は敷地の四方に、幅員5～10m、樹高が15m以上のものが30本ほどあり、現存する大木の状態から、およそ200年前後存続しているようです。

※1) 化粧隅木…軒を見上げた時、隅に斜めに見える部材。

※2) 化粧垂木…軒裏や屋根裏などに用いられる美しく仕上げられた垂木。



DATA

- ▲ 目黒区原町2-5-8
- 🕒 10時～16時(最終入園は15時30分まで)
- 🕒 月・火曜(但し祝祭日の場合はその翌日)、8/8・8/17・12/26・1/16
- 🚶 東急目黒線「洗足駅」徒歩約5分

ここに注目!

武蔵野の原風景をとどめており、江戸時代から近代にかけての建築技術が残る貴重な宮野家のお屋敷です。



*Meguro Tourism
Encyclopaedia*

訪問
マナー

めぐろのみどころ

目黒を楽しむ情報が満載！

お手軽
ダイジェスト
版